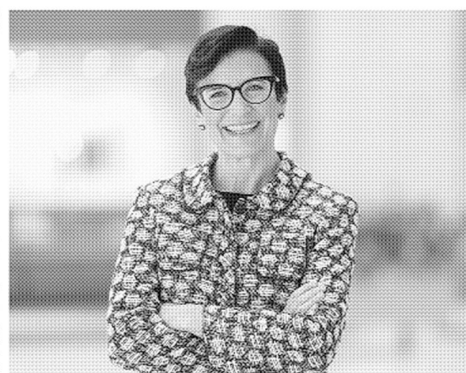


米銀大手シティグループのジェーン・フレーザー最高経営責任者（CEO）はNIKKEI Financialのインタビューで、サプライチェーン（供給網）の混乱やウクライナ侵攻で影響を受けている多国籍企業の支援を強化する考えを示した。大手米銀で初の女性CEOとして、ダイバーシティ（多様性）が経営の強みとなる点にも触れた。

## 「歴史の流れ変わった」

米シティグループCEO  
ジェーン・フレーザー氏



「マクロ経済と地政学的環境は劇的に変化し、歴史の流れも変わった。シティにできることはグローバル事業を展開する顧客企業のパートナーとしての立場を強化することだ。顧客企業同士を結びつける当社の役割はますます重要になっていく。個人向け銀行業務から撤退し、法人事業に特化した日本でも同様だ」

## 物流混乱、多国籍企業に試練

融資残高）を積極的に削減している。ロシアからの個人向け銀行事業と商業銀行事業の撤退に取り組んでいる。ロシア国内における新規顧客の獲得や新規事業の勧誘もやめ、世界で実施されている対ロシア経済制裁に資する対ロシア経済制裁に資するに従うようにしている。

「パフォーマンスについては落胆しているが、今後の戦略が実を結ぶと確信している。強みであるグローバルネットワークを生かし、海外事業を手がける顧客の優れたパートナーになれるよう注力している。その顧客は機関投資家や企業、富裕な個人投資家などだ」

「事業の柱であるサイバースタッフ、市場業務、銀行業務、それにグローバル」

「各国でエネルギーの脱ロシア依存の重要性が高まっています。天然ガスと石油を中核とした新たなエネルギー供給地図ができると予想している。短期的には化石燃料への依存が高まることがあるが、中・長期的にはよりクリーンなエネルギーや持続可能な資源が重視されるよう積極的な働きかけのつもりだ」

「タイバースティの重要性をどう示しているか。私は経営者としてグローバル・ウェルス・マネジメントと米国の5つの事業が重要な責任を担っている。それは企業にあってこそ正しいことである。健全化を促すためであり、私が女性だからではない。コロナ後の世界はめまぐるしく変わり、従来のやり方にこだわらない斬新な視点が必要だ。タイバースティとインクルージョンは異なる視点を持つ個人々の強みを生かし、好業績や革新的で健全な文化・社会を築くことにつながる」

（聞き手は ニューヨーク＝伴百江）